

ほら、もう寝る時間よ、
早く部屋に戻りなさい。

戦争で孤児になったわたしが12才まで
この教会で育った、

いつも優しくしてくれた

セリーアシスターは家族以上の存在だ。

密かに彼女を慕うわたしは、
彼女にふさわしい男になるため、旅に出た。

そして5年ぶりに
戻ってきた
しかし目の前の光景が
あんまりにも残酷…

ああ、
こりやひでえな





えっ……こ、これは、
いや、
そんなはずが…

看板に貼られたポスター、
中にいた女性……まさか



うひょー

このストリップショーの
看板、たまりませんな
ちよつと見に来ませんか？

おまえ本当それ
ばかり…

目が隠れているが、

その屈託の無い笑顔と口元のほころ

そして気にしなくても覚えるあの豊満な体

間違いなくセリーアシスターだ…
また生きている

驚くほど太いの張型が何本も
おしりに刺され、
それでも彼女はほほえんでいる

不覚にもこのあられもない姿に
興奮してしまいました…





もっと驚いたのはポスターの下部分、

想像できないほどでかい
赤色の陰茎を嗜んでいる彼女の顔は
すてに発情したメスにしか思えない
変貌ぶり

その馬獣人との交尾ショーは

さぞかし大変気に入ったでしょう…

このような再会は望んでいないが、

彼女はまた生きているだけで、
いいんだ…

どんな形でも彼女を好きな
気持ちは変わらない

…わかった



極限拡張!

ストリッピング

極太ティルト金へ爆撃!!

そう思いながら、わたしは
ショーの会場に向かって行った

元神職淫射指導シスター

巨大馬千生交尾

